



シンボル・マーク

子と親・幼稚園が  
ともに手を取りあっ  
て未来への飛躍を願  
うもので、親と幼稚  
園が子どもを育む姿  
を岩手の「い」に象  
徴している。

# 広報岩私幼連

VOL

116

(題字は工藤巖元岩手県知事)



『厳しい寒さに負けない子ども達』

# 教員免許状更新の廃止や子ども家庭庁創設の課題



(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会  
会長 坂本 洋

ソサイティ5.0時代の到来や社会情勢の先行き不透明な予測困難時代に対応する、令和の日本型学校教育の構築として、将来の子ども達の資質や能力を向上させる新たな教育のあり方が注視されております。令和4年は、その方針が具体化されることを前提として、教員免許状更新の発展的解消（廃止）に伴う新たな教職員研修のあり方や子ども家庭庁創設による子どもがまんなか社会の促進の制度改革が早急に進展することが予想され、当県連事業内容もその趣旨や方針課題への実施対応が必要とされております。

## 1、教員免許状更新の発展的解消（廃止）

2009年に導入され実施している教員免許状更新が発展的に解消することが決定されました。大きな制度改革で新年早々の国会で教職員免許法の改正が関心事です。令和5年にはそれに基づく教員研修制度が開始する方針が盛り込まれ、各教員の研修履歴を記録して管理。個々の能力を引き出すための必要研修受講の制度設計を目指すとのことです。また期待される水準に達していないと判断された教員には職務命令で研修受講や場合によっては免許停止

措置も検討と言われております。

さて公立教員教師にとっては、研修受講履歴の記録管理や履歴を活用した受講の義務付け等は教育委員会で一括管理できております、私立学校、特に幼稚園等はどのような機関で管理記録して有効活用できる仕組みが考えられるか課題です。

全日本私立幼稚園団体としては、現在、幼児教育研究機構の研修俯瞰図を見直し発展させ、「幼稚園ナビ」機能をさらに充実して各県連団体教研研修を含め履歴記録管理を可能にして、法改正に伴う「新たな教師の学びの姿」に対応できないか検討を始めております。ソサイティ5.0時代の到来の予測、時代の変化に伴い、教職員には多様な資質向上がより一層求められ組織内研修を含め自己研修の更なる充実が必須となります。当県連事業として、従来の教育研修部門の延長線上に応えられる事業内容を構築していきたいものです。

## 2、子ども家庭庁の創設と幼児教育の推進

2015年の子ども子育て支援法施行で幼保一元化が最速促進かと思いましたが、各施設の所管官庁が3省となり予算執行などを含め、より複雑な制度となっておりました。その間、子ども関連施策を一体的に行う反省から「こども庁」（仮称）創設が検討されておりましたが、この度の閣議で、こどもがまんなか社会を目指す新たな司令塔「子ども家庭庁」の創設が内閣府特命大臣担当のもと、企画立案・総合調整部門、成育部門、支援部門の3内部部門で発足する見込みが決定され、令和5年度の早い時期に実施できる法案整

備をすることになりました。ただ我々幼児教育団体として一番気掛かりにしていた子どもにとって必要不可欠な教育部門は、従来通り文部科学省が担当することになり基本的に納得しております。

いずれにしろ、子どもの視点を大切に全ての子どもの健やかな成長・ウェルビーイングの向上、知識の創造者としての子ども観を根底に、発達可能性を秘めた個性豊かな子どもの多様な存在に対応した質の向上を目指す制度改革には心から賛同いたします。

## 3、これからの取り組みとして

令和の日本型学校教育の構築、新たな学びの姿等、時代とともに変革する制度や子ども観、教育・保育指導理念の共有理解が必要で、将来の子ども達が育む資質や能力を高める専門性資質向上が、我々の大きな課題です。先ずは施設長が先達となり、自園独自の「質の向上」を組織内で共通化することが当面の必須課題です。





# 令和3年度総合研修会

令和4年1月11日・12日の2日間にわたり、花巻温泉ホテル千秋閣に於いて開催されました。参加園は57園で参加者は初日275名、2日目119名を数え、全体会のほか経営セミナーと教員研修の分科会に分かれて開催されました。



## 講演 『発達障害の特性理解と支援の枠組み』

講師 岩手大学教育学部 特別支援教育課 准教授 鈴木恵太 先生



「障害を理由とする差別解消の推進に関する法律は、2016年に施行され、「不当な差別的取り扱いの禁止」

「合理的配慮の提供」の二階建ての配慮から、支援する方もされる方も無理しないで継続できる策を考えようという基礎的環境整備と合理的配慮の視点での仕組みの説明があった。その上で、発達障害者支援法に基づき、社会生活の中で困っている人、生きづらい人を発達障害とよぼうと捉え、発達障害の状態として、自閉症スペクトラム障害の特徴は、非言語的調節機能（身振り・表情・空気）や感覚の過敏さやこだわりや執着、自

己モニタリングの弱さは、自分自身を客観視できず、自分の行為が抜け落ちることが多く、そこを丁寧に理解させることが大事。注意欠陥多動性障害の特徴は、不注意タイプ・混合タイプ・多動性・衝動性優勢タイプがある。成長のステージで3タイプが入れ替わることもある。注意とは、特定の刺激や情報に対して意識を向けること。注意を選択的(気がそれやすいため)に向け、持続(集中できないため)することが必要。目移りしないよう、気がそれないような工夫と注意が向き持続しやすい環境は、ごちゃごちゃしない、うるさくない場で「見通し」を持つことで心の準備ができること。発達障害の特徴と早期対応としては、2歳半の言葉の遅れは、7、5歳時に70%がADHDやASD等他の発達障害と診断された。

言葉の遅れは、何かあるかもしれない。特別な支援を要する子供達は、「できない」ことで顕在化することが多い。しかし、「障害」は「理由」ではない。発達の状態を広く捉えることで発達の遅れや偏りをケアするということでした。最後に支援にあたっては、環境の工夫・情報伝達の工夫・活動内容の工夫・教材教具の工夫・評価というユニバーサルデザインが「わかる」「できる」の保育につながるのだと。集団指導と個別指導との組み合わせの工夫から”丁寧”に教える際のポイントとして、教示・モデリング・リハーサル・般化「できる」「いいな」の気持ち（自信）へつなげる支援についての講演でした。



## 講演 『保育現場におけるリーダーシップの理解』

講師 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 副会長 今西界雄



保育現場におけるリーダーシップのあり方について、当連合会の今西界雄副会長から具体的な内容についての講義が行われた。その中、リーダーシップとは何か、マネジメントとは何かの

定義が示され、マネジメントは、得たい成果が工程通り行われることに主眼が置かれるのに対し、リーダーシップの重要な点は、変化の中でビジョンという成果を如何にしたら得ることが出来るのかに焦点が当てられているという違いを明確にした。リーダーシップを発揮するためには、リーダーシップの構成要素である「目的を明確にする」「ビジョンを創り出す」「コミュニケーションに熟達す

る」「変化を引き起こす」「見方に挑戦する」5つの項目が重要であり、それについての説明がなされた。それを基に教育現場における得たい成果とは何かを明確にすることの大切さが説明され、保育の質は人間の質であると定義をし、常にステップアップを行うことによって保育現場のバージョンアップをしていくことの大切さを話し、講義を終えた。

## 講演 『組織目標の設定と進捗管理』

講師 岩手県立大学社会福祉学部 教授 宮城好郎 先生



総合研修会 1日目、経営セミナー 2コマ目は、岩手県立大学社会福祉学部教授の宮城好郎先生による「組織目標の設定と進捗管理」をテーマに講演を頂いた。内容は、組

織目標とは複数の人が共通の目的に向かい、協力して目的達成のために貢献する事であり、その目標設定するうえで重要なのは、「憧れと頑張れば届くかも」ということを意識して設定することが大切である。個人的パーパスが目標を設定する際に必要な事であり、個人的目的と組織的目的が一致することがもっとも重要であるという話を伺った。

職員一人一人が自身の存在意義を自覚し、園運営にあたる一人の職員として自分にできることを前向きな姿勢で取り組める環境を整えることの重要性を感じることであった講演であった。

## 講演 『乳幼児の発達に応じた保育指導の充実』 ～養護と教育の一体的指導の中で～

講師 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 会長 坂本 洋



総合研修会 1日目の午後は、経営セミナーと教員研修会に分かれて講演となり、教員研修会では、本連合会の会長である坂本洋先生に講演を頂いた。テーマは、「乳幼児の発

達に応じた保育指導の充実」～養護と教育の一体的指導の中で～であった。

幼保の一体化が促進され、幼稚園・保育所がともに0歳から養護と一体となった教育が生まれている。そんな中施設の役割機能も深化し社会的な機能や、役割の充実が求められている。また乳幼児の教育・保育の質の向上は重要で求められる大き

な課題である。人格形成の基礎・人間への基本的信頼感と愛情を育てる基礎など人間形成にとってもっとも重要な時期に携わる我々は、質の高い保育・教育を展開していくために指導計画の見直しや、職員の研修や園内研修などを行い、職員一人一人が専門性資質の向上に努めていかなくてはならないと改めて感じることであった講演であった。

## 講演『食育計画』

講師 幼保連携型認定こども園 やさわかども園 栄養士 菅原亜紀子 先生



食育について、新たな日常と社会問題から、SDGs、食品のロス削減に向けて、やさわかども園で取り組んでいることを中心にお話ししていただきました。食事について、多くの人が心を込めて作っていることを知

り、食べることの大切さに気づける環境をつくること。子どもは関係性で食べることから、「口で味わうおいしさ」「心で思うおいしさ」を絵本や畑、工場見学、生産者との触れ合い、クッキング体験などから楽しく知ったり、関わったりすることで食への興味が深まり、食品ロスと向き合うきっかけづくりをしているとのこと。また、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」を子どもの

和食文化形成を支えるために、例えば端午の節句の「柏餅」になぜ食べられないのに葉がついているのか、葉のもつ意味について知ることや防災の日に非常食訓練として手作りだしを使って味噌玉を作り昼食時に食べたことやグリルバイキング、親子パン焼きなど充実した食育教育について多岐にわたっての講演でした。

## 講演『保育管理下における事故事例から学ぶ』 ～園児の安全管理と保険対応～

講師 東京海上日動火災保険株盛岡支店盛岡中央支社 主任 佐藤麻由 先生



東京海上日動火災保険株式会社主任の佐藤麻由氏をお迎えして、滅多にあることではないが、起こった時に深刻な問題を引き起こす損害賠償責任について、事例に基づいた講

義が行われた。まず、保育施設における法律上の賠償責任について、発生した事故事例を基にどのような賠償責任が事業者科せられるかの説明がなされ、そのような賠償責任が発生する危機管理について以下の説明がなされた。危機管理に於いて大切なのは、リスクが想定される事項の認識が大切で、「子どもの怪我」「交通量」「遊具の管理体制の不

備」等のリスクの洗い出しとリスクマネジメントをしっかりと行うことの大切さが指摘された。リスクの洗い出しには、「過去の事故の事例」の収集やそれらの事故の統計分析情報の収集やその理解の大切さが挙げられた。また、発生したリスクに対する対処の仕方など賠償保険の活用方法などの説明がなされた。

## 講演『雇用管理と働きやすい環境づくり』

講師 社会保険労務士 菅原かおり 先生



働きやすい職場づくりにむけた、社会保険労務士菅原かおり氏をお迎えして雇用と労務管理について講演を頂いた。ここ数年取りざたされている「ハラスメント」について詳しく説明がなされた。近年ハラスメン

トの種類も細分化され、どのようなことがハラスメントになり得るのかについて話された。特に「パワーハラスメント」については、本人が気がつかないことがパワーハラに該当する場合もあり、代表的なパワーハラの6類型が紹介された。①暴力傷害②脅迫や暴言③無視や仲間外し④遂行不可能なことの強制⑤能力より低い仕事を与えたり仕事を与えない⑥私的なことに過度に立ち入る等うっか

りしてしまいそうなことであることが指摘された。このようなことは民法に抵触することもあるので注意を要したい。パワーハラを防ぐための方法も紹介された。最後に労働基準法に基づいた時間外労働や年次有給休暇など日常業務に必要な内容について説明がなされた。また、快適に働くためには、その人しか知らない仕事を作ることの危険性を指摘し講義を終えた。

## 地区会だより

### 県北 「子どもたちの健やかな成長を願って」

新しい年も新型コロナウイルスの感染拡大や、いつ起こるかわからない自然災害が懸念されます。今年はコロナが発生してから3年目に入ります。県北の各園が様々な行事や運営面も工夫しながら行ってきましたが、これまで以上に、感染症対策への備えや災害対策に取り組まなければならない思いを新たにしています。

さて、まとめの3学期が始まりました。子ども達は寒い季節ならではの外遊びや三つ編み遊び・ロングレール作りなど、室内外の遊びを満喫しています。クラスの友だちと協力し合って生活したり、低年齢児と手をつないで歩いたり、進学・進級を控えた子ども達の姿は、本当に成長を感じさせてくれます。

こうしたかけがえのない子ども達のために研修会等の充実を図り、更なる教育・保育の質向上を目指したいと思います。

(幼保連携型認定こども園久慈幼稚園 園長 田高美恵子)



三つ編みに挑戦!

### 盛岡 「来年度こそは顔を合わせて熱く語り合おう!」



みんなでじっくり話し合い

本来ならば、今年度はテーマ毎の6班に分かれて、2年継続で行われている盛岡地区教員研究会のまとめの年でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、私たちの健康、そして子どもたちの健康と安全を守るため、盛岡地区研究会の定例会を中止といたしました。それに伴い主任会も延期していましたが、10月28日に第1回主任会を無事行うことができました。久しぶりにお会いする先生方と交わす挨拶の中には、コロナウイルス対応のご苦労が感じられましたが、明るい笑顔に嬉しくなりました。会では今年度は進められなかった研究の今後の方向性について盛岡地区会長の坂水かよ先生からお話していただきました。その中で「目の前にいる子どもたちの姿について、顔を合わせて熱く語り合う」それこそが現場の教育力を高めること、というお話に勇気もらった私たちでした。次年度に研究内容を引き継ぎ、改めて研究を進めていこう!(もちろん感染対策をしっかりとりながら)と気持ちを新たにすることができました。

(仁王幼稚園 主任教諭 澤口 香)

### 中部 「学び続け、深めていくことの重要性を感じながら…」

中部地区の教員研修会は、新型コロナウイルス感染症予防を取り入れながら、北上地区・花巻地区で開催しております。

今年度、北上地区では、特別支援についての学びを深める為「アセスメントに基づく障がい児保育」と題し、講師の先生をお招きし研修を行っております。援助の手立てに悩む中で、アセスメントシートを保育の中に取り入れることで、その子の理解が進み、具体的な支援の方法を探る事ができたり、保育者同士・又保護者とも共有する事ができ、より良い支援につなげられることがわかりました。

花巻地区では、障害児保育の観点から、「子ども理解に基づく指導と支援」と題し、講師の先生より講義していただきました。二月には「マネジメント」と「乳児保育」の分野での講義を予定し、先生方の専門性を高めていきたいと思っております。

(大堤幼稚園 副園長 小金山智恵美)



1月に行われた研修会の様子

## 県南 「一人一人に応じたより良い保育を目指して」



ブロック研究会の様子

県南地区一関支部では一関ブロック（A, B）と千厩・気仙ブロック（C）のグループに分かれ、それぞれのテーマに合わせた研究を行っています。

今年度は2年継続した研究のまとめになる「すかわ」を発行する年にあたり、実践及び考察を通して次への課題を明確にしていきました。以前であれば各園に集まって近況報告を行い、親交を深めながら研究を進めていましたが、コロナ禍の中で昨年に引き続き各園毎の研究会になりました。ブロック全体での話し合いは出来ませんでしたが、当番園を中心にお互いに連絡を取り合いながら研究をまとめました。今後も子どもの姿や特性を様々な観点から捉えて理解を深め、一人一人が生き生きと活動するための適切な指導計画や環境構成を行い、質の高い幼児教育を実践していくために日々研究を積み重ねていきたいと思っています。

（海の星幼稚園 園長 菅原優子）

## 沿岸 「主体的に遊びや活動を展開する環境づくり」

沿岸地区では令和2年度から「子どもと共に作り出す“活動と環境”」というテーマで研究を進め、2年目となりました。各園ごとに研究を進めてきて、山田・宮古ブロックでは夏休み中に各年齢ごとでの報告会を聞きました。テーマの捉え方や保育内容、保育環境、幼児の姿の読み取りもそれぞれの園によって異なっていました。子どもと共に作り出す活動では、子どもが主体的に遊びを展開できる環境を整えることが必要であることが分かり、それぞれの園での環境作りの工夫が参考になりました。自分達の園にどのような形で取り入れるか、また今後も子どもが主体的に遊びを展開するための環境を構成し、保育者の援助を継続的にやっていくことが求められると思います。令和4年度もコロナ禍で集まっての意見交換等は難しくなると思いますが、オンラインを利用しながら多様な視点をもって研究を進めることが必要だと考えています。

（そけい幼稚園 主幹教諭 舘洞祐子）



ジュース屋さんごっこ

### 第37回岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 教員研修大会(県南大会)《ご案内》

大会主題	「新しい時代を伸びやかに生きる」 ～社会に開かれた 質の高い幼児教育を～	【第1分科会】 ◆発表テーマ 「カリキュラム・マネジメントと関連付け ながら実施する学校評価について」	・助言者 岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 瀬谷 圭太 先生
期 日	令和4年3月24日（木）	・発表者 聖パウロ幼稚園	【第3分科会】 ◆発表テーマ 「健康な心と体を育む」 ～「体力づくり運動・体を使った遊び」 を通して、体を動かすことが大好き な子どもを育てる～
会 場	ベリーノホテル一関 一関市山目字三反田179 TEL 0191-23-1000	・助言者 岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 吉田 澄江 先生	・発表者 認定龍澤寺こども園 指導保育教諭 佐々木 貴子（県南地区）
記念講演	演 題 「子どもの造形の発達」 ～乳幼児期の造形の発達と 3～5歳までにやっておき たいこと～	【第2分科会】 ◆発表テーマ 「幼児教育と小学校教育の円滑な 接続を目指して ～奥州市接続期カリキュラムを視点に～」	・助言者 仙台大学 体育学部 子ども運動教育学科 准教授 金 賢植 先生
講 師	元駒沢女子短期大学 准教授 菅原 順一 先生	・発表者 認定こども園 姉体幼稚園 主幹保育教諭 佐藤 順子（県南地区）	

#### ●編集後記

コロナ禍も3年目に突入、今年こそコロナの収束をとの願いも空しい幕開けとなりました。オミクロン株の感染急拡大傾向の中、3学期の生活が始まりましたが、無邪気で元気

な子ども達の喚声を聞いていると、心配も少し和らぎます。まだまだ続くコロナとの生活、予防対策を怠ることなく子ども達の成長に欠かせない行事が安心して行われる日が一日

も早く来ることを念じつつ、会報116号をお届けいたします。

（政策委員 植村生子）